

## 新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

このたび、下記の検査項目を新たに受託開始いたしますので、ご利用いただきたくご案内いたします。

当社におきましては皆様のご要望に幅広くお応えすべく研鑽を重ねてまいりますので、今後とも引き続きお引き立てのほどよろしくお願い申し上げます。

敬白

### 記

■ 実施日 2017年11月6日(月) ご依頼分より

### ■ 新規項目内容一覧

項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査 方法	基準値 (単位)	備考
6566	便中カルプロ テクチン 5C235-0000-015-023	糞便 1g	FOO (U)	凍結	5~9	276 ※5	ELISA	潰瘍性大腸炎の病態把握の カットオフ値 240  ( $\mu\text{g/g}$ )	<b>重</b> 他項目との 重複依頼は 避けてくだ さい。

※5：免疫学的検査判断料

## ● 便中カルプロテクチン

潰瘍性大腸炎の活動性評価に有用な新規マーカーです。

カルプロテクチンは、主に好中球の細胞質に含まれる分子量36kDaのカルシウム・亜鉛結合タンパク質です。潰瘍性大腸炎では、活動期の腸管に浸潤した好中球から分泌され、便とともに体外に排出されることから、腸管の炎症度を反映するマーカーとして知られています。

潰瘍性大腸炎は、クローン病とともに炎症性腸疾患と総称される慢性の炎症性疾患であり、国の難病に指定されています。根本的治療法が確立されておらず、再燃と寛解を繰り返すことから長期にわたる医学管理が必要とされ、定期的な内視鏡検査が行われています。しかし、内視鏡検査は侵襲性が高く患者の負担が大きいことから、より簡便な検体検査が求められていました。

ELISA法による便中カルプロテクチンは、潰瘍性大腸炎の患者に対する病態把握の補助を目的とした検査として、2017年6月に保険適用となりました。臨床性能試験では、Disease Activity Index (DAI) 内視鏡スコア1以下を内視鏡的寛解とし、本検査のカットオフ値を240 $\mu\text{g/g}$ とした場合の診断性能として、感度96.7%及び特異度64.9%、陽性的中率69.0%及び陰性的中率96.0%、判定一致率79.1%の結果が得られています。

非侵襲的に潰瘍性大腸炎の活動性を評価する検査としてご活用ください。

### ▼ 疾患との関連

潰瘍性大腸炎

### ▼ 関連する主な検査項目

PGE-MUM

### ▼ 検査要項

検査項目名	便中カルプロテクチン
項目コードNo.	6566
検体量	糞便 1g
容器	FOO (U) 糞便容器
保存方法	必ず凍結保存してください
所要日数	5~9日
検査方法	ELISA
基準値	潰瘍性大腸炎の病態把握のカットオフ値 240 ( $\mu\text{g/g}$ )
検査実施料	276点 (「D014」自己抗体検査「27」)
判断料	144点 (免疫学的検査判断料)
備考	<b>重</b> 他項目との重複依頼は避けてください。

### ● 参考文献

Lobatón T, et al : Inflamm Bowel Dis 19 (5) : 1034~1042, 2013. (臨床的意義参考文献)